

第4回 西宮湯川記念賞贈呈式

西宮湯川記念講演会



平成元年10月28日

午後1時30分～4時

夙川公民館 ホール

主催／西宮湯川記念事業運営委員会・西宮市・西宮市教育委員会

受賞者・講師のプロフィール



受賞者 おぬき 小貫 あきら 明

昭和23年3月21日生れ
昭和42年3月 神奈川県立希望ヶ丘高校卒
昭和46年6月 東京大学理学部物理学科卒
昭和51年3月 東京大学理系大学院博士課程修了
昭和51年4月～昭和52年3月 学術振興会奨励研究員
昭和52年4月～昭和57年12月 九州大学理学部助手
昭和58年1月～現在 京都大学基礎物理学研究所助教授

受賞研究 複合液体の動的理論「Dynamical Theory of Complex Fluids」
受賞理由 溶液、高分子液体、ゲル等いわゆる“柔らかい物性”の非平衡現象の理論的研究の開拓者の一人として高く評価された。

特に良く知られている研究は、流れの下での、溶液や高分子液体の臨界現象における特異性についての理論的予言であり、前者については実験的にも検証された。

また、高分子のゲルの体積相転移やそれに付随して現われるパターン（しわ）に関する優れた研究、液体ヘリウムの超流動への相転移に及ぼす熱流の効果についての理論などによって実験家に強い刺激を与えた。



講師 にしむら 西村 じゅん 純

昭和2年生れ
昭和23年 東北大学理学部卒業
科学研究所仁科研究室助手
昭和25年 神戸大学助手
昭和31年 東京大学原子力研究所助教授
昭和41年 東京大学宇宙航空研究所教授
昭和56年 文部省宇宙科学研究所教授
昭和63年 文部省宇宙科学研究所所長
昭和31年 フリーマン賞（三次元シャワー理論）
昭和42年 仁科賞（超高エネルギー現象における二次粒子の横向き運動量の重要性の提唱とその実験的研究）
昭和43年 松永賞（大型エマルジョンチェンバーの開発）

著書 “気球を飛ばす” 岩波書店（1975）

講演要旨

“宇宙線物理学” 朝倉書店（1983）他多数

人類の発祥以来謎とされてきた宇宙の神秘も、近代科学のたゆみない研究によって少しずつその本性が明らかになって来ました。8月には、ボイジャーが海王星に接近して、この未知の惑星の姿を我々に知らせてくれました。このようにして明らかになってきた現在の宇宙像についてお話し、これからロケットや人工衛星、惑星探査機によって世界中のそして日本の宇宙科学の分野がどの様な計画を進めようとしているのかについてもお話ししたいと思います。

西宮湯川記念事業

湯川秀樹博士が、日本人として初めてノーベル賞をお受けになられた「中間子論」を発見されたのは、苦樂園にお住まいの時でした。

それから50年を経た昭和60年に博士の門下生の方々が中心となって、「中間子論誕生記念碑」を苦樂園小学校校庭に建立されました。その碑文には、博士の著書「旅人」から「未知の世界を探求する人は、地図を持たない旅人である」という言葉が、刻まれています。

西宮市では、これを契機に中間子論が本市で誕生したことを42万市民をはじめ内外に広く知っていただくとともに、文教都市西宮の誇りとしたいと考え、昭和61年から「西宮湯川記念事業」を発足しました。

この事業は、市民の方々に理論物理学を平易に解説し、基礎科学に対する正しい認識と、学生・生徒の科学する心を養うための「西宮湯川記念講演会」と、次の理論物理学を担われる若手研究者の研究奨励を目的に、顕著な業績を修められた方に贈呈する「西宮湯川記念賞」、研究者による研究発表と討論のための「西宮湯川記念理論物理学シンポジウム」で構成されています。

この事業を通じて湯川博士の「真理を探求する心」と「平和への願い」が一層市民生活と教育実践の中に強く継承されることを念願しております。

湯川秀樹博士略年譜

明治40年（1907）	父琢治、母小雪の三男として東京麻布に生れる（1月23日）
昭和4年（1929）22歳	京都帝国大学理学部卒業
昭和8年（1933）26歳	苦樂園の新居に居住
昭和9年（1934）27歳	中間子を予言。日本数学物理学会で講演、論文「素粒子の相互作用Ⅰ」（中間子論第Ⅰ論文）を投稿
昭和10年（1935）28歳	同論文を日本数学物理学会欧文誌に掲載
昭和14年（1939）32歳	京都大学教授となる
昭和15年（1940）33歳	甲子園口に転居
昭和18年（1943）36歳	京都に転居
昭和24年（1949）42歳	核力に関する中間子理論によりノーベル物理学賞を受ける
昭和30年（1955）48歳	ラッセル・アインシュタイン宣言の共同署名者となる。 下中弥三郎氏・茅誠司氏らと世界平和アピール七人委員会を結成
昭和56年（1981）74歳	京都下鴨の自宅で永眠（9月8日）